

設定した言語活動を通して育てたい力

○ おもちゃをより楽しいものへと改善するための、自分の考えや試行の過程及び結果を整理して表現することができる。

思考力、表現力の育成

- ◇ 学年 第2学年
- ◇ 単元名 作ってためして〔内容（6）〕
- ◇ 本時の目標 友だちと遊んだ際の気付きを基に、自分のおもちゃがもっと楽しくなるための工夫をすることができる。
- ◇ 学習の流れ（13・14時間目／全18時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 （評価方法）
〔単元計画の概要〕第1次（6時間）：身近な物を使って動くおもちゃを作る。第2次（8時間）：作ったおもちゃを使って遊ぶと楽しいことに気付き、おもちゃ大会を計画する。おもちゃ大会のために、おもちゃや遊びの改善を図る。第3次（4時間）：1年生を招いておもちゃ大会をする。 〔前時の活動〕作ったおもちゃを使って友達と遊び、「うまく動かなかったから、もっと～してはどうか」等指摘し合った。友達から指摘を受けたり、友達が遊ぶ様子を見て考えたりした「もっと～したい」という願いと、その願いを実現するための見通しをワークシートに整理した。（おもちゃの例：帆かけ車、ゴムロケット、魚釣り等）		
1 本時の学習のめあてを確認し、活動の見通しをもつ。	おもちゃがもっと楽しくなるように工夫しよう！ ◇前時までの活動を振り返りやすいよう、ワークシートは単元を通して綴っておく。 ◇自分のおもちゃの「もっと楽しくなる工夫」と本時の活動の見通しを、前時のワークシートで確認する。 ◆活動の見通しが立っていない児童をワークシートから把握しておき、言葉かけによって考えを整理させ、見通しをもたせる。 ◇危険を伴う道具（カッター等）の使い方などについての約束を確認し、安全に使用することを意識させる。	気付きを引き出し、価値付け、自覚させましょう。 ★無自覚な気付きは時間とともに消えてしまいがちですが、教師が気付きを引き出し価値付けることで、児童は自分の気付きを価値あるものとして自覚します。また、このことが学習活動3の充実にもつながります。
2 グループごとに、工夫しながらおもちゃを作る。	◇児童が互いに参考にしたり、アドバイスしたりしやすいように、同じ種類のおもちゃごとにグループを作って活動させる。 ◇「どうすると速くなったの。」「ゴムを2本にするとロケットはどうなるの。」などの言葉かけにより、工夫・改善の過程での気付きを引き出し、自覚させる。 ◆活動が停滞している児童には、その理由を引き出すとともに、周囲の児童にアドバイスを求めるなど解決のための方策について助言する。	・友だちと遊んだ際の気付きを基に、自分のおもちゃがもっと楽しくなるための工夫をしている。〔活動や体験についての思考・表現〕（行動観察、対話）
3 活動を振り返り、「どう工夫したらどうなったか」を伝え合う。	◇まず、グループでおもちゃを示しながら説明し合う。 ◆説明が難しい児童には、「この時間にどんな工夫をしたか」「その結果、おもちゃはどう変わったか」と2段階に分けて説明するよう、助言する。 ◇教師はグループでの伝え合いの様子を把握し、意図的に指名して全体の場で報告させ、内容を整理して板書する。また、活動中の気付きについても出させる。	ゴールを見据えて話し合いをさせましょう。 ★ゴールを見据えるためには、この言語活動の目的を考えなければなりません。「第2次のこれまでの気付きを整理する」という、この言語活動の目的を教師が意識することで、目指す伝え合いのモデルやゴールを描くことができ、育てたい力を効果的に付けることにつながります。
＜板書例＞ こうやって工夫したよ 〔ゴム〕 ・ゴムをふやす。 ・ゴムを太くする。 ・ねじる回数をふやす。 ・引っばるきよりを長くする。 教えてくれたよ・気付いたよ ・Aさんが「太いゴムにかえたら？」と教えてくれた。 ・ゴムをかえるとき、Bさんがタイヤをもってしてくれた。 ・Cさんはいろいろな工夫を組み合わせていた。 速く走る 遠くまで走る 高くとぶ		
4 おもちゃ大会の準備について見通しをもつ。	◇おもちゃ大会への願いを出し合わせ、次時への思いや願いをふくらませるとともに、準備について考えておくよう促す。	
5 後片付けをする。	◇手際のよい片付け方を考えて取りかかるよう助言する。	

